

名 称	島根県体験活動ボランティア活動支援センター
所 在 地	〒690-0011 島根県松江市東津田町1741-3
連 絡 先	TEL : 0852-32-5932 FAX : 0852-32-5934 URL : http://www7.pref.shimane.jp/manabi/

地域の現況・特色

活動対象地域の人口 奥出雲町 15,725人

本奥出雲町は、島根県と広島県との県境の中国山地に位置し、平成17年3月31日、仁多町・横田町の2町が合併して生まれた新しい町である。

中国山地の美しい山並みに抱かれ、やまたの大蛇退治などの神話やロマンにまつわる町として、古くから農耕が栄えた豊潤の地である。我が国有数のたたら製鉄の産地として、出雲圏域における一つの文化圏を作り栄えてきた。

また、山陰と山陽を結ぶルート上に位置し、中世期は多くの山城が築城され、幾多の攻防の舞台となった地である。

町内の学校では、地域と連携しながら、たたら学習やそろばんを活用した学習、職場体験学習、斐伊川や仁多米、仁多牛などふるさとの豊富な資源（ひと・もの・こと）を活用した学習を積極的に進め、豊かな心を持つ子どもの育成に取り組んでいる。

事業の名称、活動概要

名称 奥出雲町立仁多中学校職場体験学習

奥出雲町立仁多中学校では、職場体験学習をバックアップするに当たって、地域の様々な立場のメンバーで構成する「キャリア・スタート・ウィーク実行委員会」を設け、学校・地域・家庭が互いの役割分担等の共通理解を図りながらスタートした。

体験学習前には、地域の事業所の協力を得て学校内に「仁多中ハローワーク」を設け、生徒は希望する事業所を各自が選択し5日間の実習を行った。

また、島根県体験活動ボランティア活動支援センターに、事前学習として職場体験に必要な「マナー」「コミュニケーション」力を養う講座を依頼し、より実りある職場体験学習を目指した。

事業の実施に至る背景、連携・協働のねらい

職場体験学習は、生徒一人一人が生き方や将来の進路を考えていく上で重要な体験活動と考えている。また、日頃の教科の学習や学校生活の様々な場面と結びつけていく必要もある。今までもこの考えを前提に職場体験学習を行ってきたが、望ましい職業観の形成や社会人としての適応力の向上を考えた際、地域を挙げて生徒の活動支援をしていくと同時に、コミュニケーション能力の向上、社会生活そのものへの関心を向けることなどの必要性を感じた。

そこで、町内の様々な分野の方々に支援をお願いし、実行委員会を立ち上げた。また家庭にも理解と協力を求めた。さらに島根県体験活動ボランティア活動支援センターに社会人として必要なマナーやコミュニケーションの力を高める講座の依頼をし、生徒自らが生き方を考え、幅広い能力を培う職場体験学習を目指した。

事業の内容

① 事前準備として行った取組（企画段階）

学校や教育委員会関係者だけでなく、公民館や役場の職員、自治会、商工会、一般企業職員など様々な立場の人で構成する「キャリア・スタート・ウィーク実行委員会」を立ち上げ、職場体験学習への理解と支援体制の充実を図った。また、家庭・地域・商工会の協力を得、学校内に「仁多中ハローワーク」を設けた。

また、より豊かな職場体験学習とするために、「ゲストティーチャーによる職場体験事前学習」を企画し、一般企業と島根県体験活動ボランティア活動支援センターに講師依頼をした。

② 活動の展開内容（活動段階）

- ・ 5月下旬 町内の様々な立場のメンバー24名で構成する「キャリア・スタート・ウィーク実行委員会」第1回目を開催、趣旨説明と今後の具体的な支援方策説明を行い、協力を要請した。
家庭にも受け入れ事業所開拓の協力を依頼した。
- ・ 6月下旬 ハローワーク仁多中を設け、求人票の閲覧をし、生徒の希望を基に体験先を決定した。家庭にも事業所選時のアドバイスをお願いした。生徒も自己アピールを書き、希望する事業所に送り、職場体験への意識向上を図った。
- ・ 7月中旬 ゲストティーチャーによる職場体験事前学習を開催。
一般企業の方の「働くことの厳しさと心構え」について、島根県体験活動ボランティア活動コーディネーターによる「働くことにおける

マナーとコミュニケーションの大切さ」についての学習を行った。

- ・ 8月中旬 生徒による受け入れ事業所への事前訪問の実施。
- ・ 8月28日～30日 前期職場体験学習の実施。
- ・ 9月7日～8日 後期職場体験学習の実施。
実施後には、アンケートをし、今回の職場体験学習の評価と今後への資料とした。
- ・ 11月16日 職場体験学習報告会の実施
「キャリア・スタート・ウィーク実行委員会」のメンバーにも参加してもらい、職場体験学習の重要性を肌で感じてもらった。

③ 連携・協働に当たってのポイント・留意点

- ・ 「キャリア・スタート・ウィーク実行委員会」（以下実行委員会）は地域の様々な領域や立場のメンバーで構成し、事業所を選定したりいろいろな情報を集めたりアドバイスが受けれるようにした。
- ・ 家庭にも事業所選定の際の協力と、また生徒の実習先選択への相談・アドバイスをお願いした。
- ・ 職場体験学習の重要性を感じてもらうために、実行委員会のメンバーに直接生徒の職場体験の発表を聞いてもらう機会を持った。
- ・ ゲストティーチャーを事前学習に呼び、幅広く望ましい職業観の形成と社会人としての適応能力の向上を図った。

事業の成果と今後の課題

- ・ 生徒は、職場体験事前学習や実際の職場体験を通し、いろいろな考えの大人に接することができ、自分の将来と進路についてより具体的な考えが生まれてきた。また地域について、新しい見方や考え方をするようになった。教員も地域についてより深く知るきっかけになった。
- ・ 学校・家庭・地域・企業が連携して職場体験学習を推進することの重要性を改めて確認することができた。
- ・ 一連の職場体験学習で得たものを、その後、学校でどのように活かしているか職場体験報告会を通して「キャリア・スタート・ウィーク実行委員会」のメンバーに知ってもらうことができ、学校内でも学年の縦のつながりを持った体制作りへのきっかけとなった。
- ・ 今後は更なる職場体験学習の充実のために、受け入れ先の充実と体験学習期間にとどまらない地域（事業所）との交流を図りたい。



職場体験事前学習の様子



職場体験学習の様子
大きな学びをした5日間①



職場体験学習の様子
大きな学びをした5日間②



職場体験学習の様子
大きな学びをした5日間③

執筆者職・氏名：島根県体験活動ボランティア活動支援センター
コーディネーター 周藤 八重子

コーディネーターからの一言コメント

学校、教育委員会、商工会、自治会など地域一体の実行委員会を形成したこと、生徒の職場の希望を尊重したこと、報告会を開き実行委員も参加していることがとても良い。生徒振り返りを体験した職場の人へ送ることも大切。

(橋本 洋光)